

## 施策評価調書

施策名	1-3-1	デマンド交通を核とした魅力ある交通体系の確立		施策を取り巻く環境変化	民間赤字路線の維持から、デマンド交通システムへ移行し、高齢者等いわゆる交通弱者といわれる方々が利用者しやすく、親しみやすい交通システムを構築しました。デマンド交通を核として、JR宇都宮線及び烏山線との連動をして、より利便性を高めていく必要があります。 民間路線バス2線(杉山線・氏家駅喜連川線)廃止
		地域経営計画(後期計画) 該当ページ	P. 23		
担当部署	総務企画部 地域安全課	担当	危機管理担当		
		リーダー	戸井田 和明		

### 1. 住民意識調査結果

21年度(10月実施)		25年度(※実施予定)		26年度(※実施予定)	
満足度	第19位/全36項目(魅力ある交通体系の確立) 1.6%	満足度	第 位/全 施策	満足度	第 位/全 施策
優先度	第36位/全36項目(魅力ある交通体系の確立) -4.5%	優先度	第 位/全 施策	優先度	第 位/全 施策

満足度:「満足である」、「どちらかと言えば満足である」を合計した割合から、「どちらかと言えば不満である」、「不満である」を合計した割合を差し引いたもの  
 優先度:「優先すべき」、「やや優先すべき」を合計した割合から、「あまり優先しなくてよい」、「優先しなくてよい」を合計した割合を差し引いたもの

### 2. 施策の目標

指標	基準値	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
指標1: デマンド交通「たんたん号」年間利用者数(H27年度@144人×365日): (人)	22年度実績 45,205人	計画	46,700(37,600)人	48,200(38,700)人	49,600(39,800)人	51,100(40,900)人	52,600(42,000)人
		実績	↑ 49,064人				
指標2:		計画					
		実績					
指標3:		計画					
		実績					
指標4:		計画					
		実績					
指標5:		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	たんたん号の利用者数 H23 @128人×365日≒46,700人 H24 @132人×365日≒48,200人 H25 @136人×365日≒49,600人 H26 @140人×365日≒51,100人 H27 @144人×365日≒52,600人 平成22年度の実績を踏まえて計画を修正しております。( )内の数字は修正前の数字です。						

進捗状況の区分 ↑: 目標以上の成果があった →: 目標どおりの成果があった ↓: 目標に至らなかった △: 遅延・未着手等 ×: 見直し・廃止等

### 3. 施策に係る経費

事業費(傘下事務事業費計)の推移【単位:千円】 (※総事業費)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
	当初	24,145				
	決算	23,663				

### 4. 施策傘下事務事業 ※別紙のとおり

### 5. 施策評価

後期計画における施策展開のビジョン		H25年度の狙い
自己評価(部)	H23 事後評価	震災直後から徐々に利用者も回復し年間延べ利用者数は、49,064人となり、平成22年度1年間の総利用者数の、45,205人と比較すると1.08倍とやや伸びに鈍化が見られるが増加傾向にあります。着実に町民に皆様の地域の足として定着しています。
	H25 事前評価	高齢者の方に多く利用されていますが、高齢者のみならず多くの方に利用してもらえるように今後もPRをしていきます。また、一部既存の公共交通(民間バス)の路線の変更等を検討しデマンドシステムの弱点である定時運行の所をうめて行くことを検討していきます。高齢者の運転免許返納の事業を進めることで、高齢者の交通事故の減少を図る。
総合評価		施策傘下事務事業に係る個別指摘事項
総合評価(町長)	順調に利用者数を増加させており、「たんたん号」が町民の足として定着したものと評価する。定時運行との兼ね合いや相互乗り入れのあり方については、十分に検証された。また利用料金のあり方については、次期地域経営計画に向け、車両更新等、今後のランニングコストや社会情勢を考慮しながら、不断に検証されたい。	・「継続事業」とする。